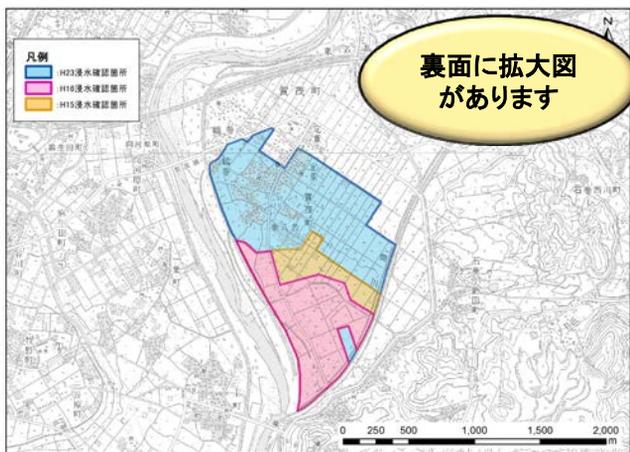


霞堤地区内で建築などをお考えの皆様へ

霞堤地区は、大雨時に浸水する可能性があります。

(1) 霞堤地区における浸水について

- 豊川では、江戸時代に吉田城下町等を洪水から守るため“霞堤”と呼ばれる不連続な堤防が中下流部に設けられたと言われています。
- 現在、豊川霞堤地区における浸水被害の軽減を図るために「豊川霞堤地区浸水被害軽減対策計画（平成28年7月）」を策定し、浸水頻度、面積や時間を軽減するハード対策と共に、浸水状況等の情報提供などのソフト対策を進めています。
- 本資料は、霞堤地区が洪水時に浸水する可能性のある地区であることを知らずに土地購入や建築を行い、浸水時に大きな被害に見舞われることを防止するために、霞堤地区における浸水や建築物の浸水対策の工夫についてお知らせするものです。



賀茂霞堤地区の近年の浸水実績



洪水時の賀茂霞堤地区（平成15年8月）

(2) 霞堤地区における建築物の浸水対策の工夫について

- 現存する4つの霞堤地区（金沢、賀茂、下条、牛川）において、建築物を建築する場合には、国土交通省が公表している**豊川水系浸水想定区域図**や**自治体の洪水ハザードマップ**を予め確認し、**浸水のおそれがあることを認識**していただきますようお願いいたします。

■住家の建築時の工夫例：

宅盤の嵩上げや耐水構造の採用など

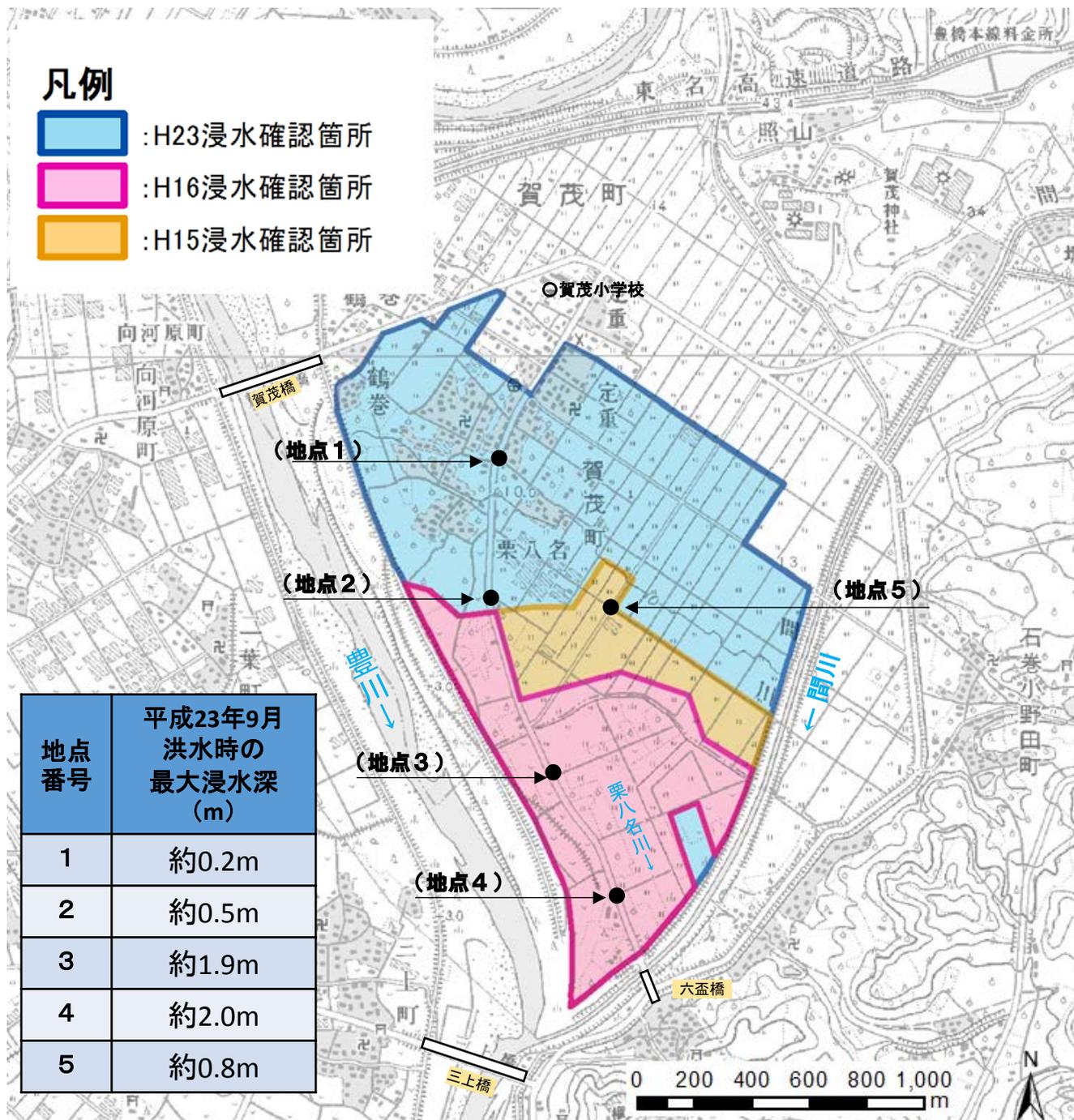
■事業所の建築時の工夫例：

設備機器の設置位置を高くすることや地下への入り口の嵩上げなど

賀茂霞堤地区における近年の浸水実績範囲

○この図は、賀茂霞堤地区における近年の主な洪水（平成15年8月洪水、平成16年6月洪水、平成23年9月洪水）時の概ねの浸水実績範囲を示したものです。

○賀茂霞堤地区で浸水する可能性がある範囲を把握するための参考にしてください。



賀茂霞堤地区の近年の浸水実績

注) 上図に示した平成15年8月洪水、平成16年6月洪水、平成23年9月洪水における浸水実績範囲は、浸水実績調査結果の最大範囲の外縁を結んで示しています。そのため、やや大きめの範囲を示しています。

注) 主な地点における最大浸水深は、平成23年9月洪水の再現シミュレーション結果に基づく数値です